

平成28年 第6回 伊丹市教育委員会 定例会 会議録

1. 日 時 平成28年6月16日(木) 午後3時00分～午後4時15分
2. 場 所 総合教育センター 2階 講座室
3. 主 宰 者 教育長 木下 誠
4. 委員の出席 江原 礼子 川畑 徹朗 秋田 久子 川崎 かおり
5. 委員の欠席 なし
6. 傍 聴 人 なし
7. 関係者の出席 教育長 木下 誠
保健体育課長 増田 健一
教育次長 二宮 叔枝
学校給食センター所長 田中 康之
学校教育部長 村上 順一
中学校給食センター設立準備室長 長澤 利文
生涯学習部長 小長谷 正治
社会教育課長 中畔 明日香
教育長付参事 二宮 毅
スポーツ振興課長 前田 勝弘
教育長付参事 谷澤 伸二
公民館長 池田 真美
総合教育センター所長 後藤 猛虎
図書館長 三枝 芳美
人権教育室長 森田 幸輝
博物館長 亀田 浩
管理部副参事 升井 竜雄
人権教育担当主幹 森口 真一
施設課長 宮木 哲男
少年愛護センター所長 米田 博一
教育企画課長 春名 潤一
教育総務課長 中井 秀典
学校指導課長 廣重 久美子
教育総務課 高田 幸美
学事課長 大村 寿一
教育総務課 寺内 みこ
総合教育センター主幹 尾崎 眞弓

8. 議事

- (1) 開会宣言 木下教育長(午後3時00分)
- (2) 日程報告 木下教育長より次のとおり会議を進める旨の発議があり、全委員はこれを了承。
 - 日程第 1 平成28年第5回定例会会議録の承認
 - 日程第 2 教育長報告
 - 日程第 3 議案第45号の審議
 - 日程第 4 議案第43号の審議
 - 日程第 5 議案第44号の審議

(3) 平成28年第5回定例会会議録の承認(日程第1)

平成28年第5回伊丹市教育委員会定例会(平成28年5月26日(木)開催)の会議録に

については、全委員一致でこれを了承。

(4) 教育長報告（日程第2）

管理部長より「6月分人事報告」・「5月分教育施設関係工事の着工・竣工報告」・「5月分の寄附採納報告」について、学校教育部長より学校教育部の、生涯学習部長より生涯学習部の、教育長付参事より人権教育室の「5月分行事実施報告」・「7月分行事実施予定」について、それぞれ説明があり、質疑応答の後、全委員一致で「教育長報告」を承認。

質疑応答

江原委員 4ページの5月28日（土）に開催された幼児教育のあり方を考える市民講座について、関心のある市民の方に参加いただき様々な意見をいただいたことに感謝申し上げます。市民の方から出された意見を集約して情報提供いただきたい。基本方針の策定に向けて、この意見は大事にしなければいけない。

春名課長 当日は、学校教育審議会の答申をより詳しく説明し市民の方から自由闊達に意見をいただいた。たくさんの貴重な意見をいただいているので、9月の最終回後に全て集約し基本計画の策定にあたって参考にしたいと考えている。

これまでの市民講座で出された意見については、ホームページに掲載している。

秋田委員 伊丹市のPTA活動が活発なのは、地域の協力が得やすいからだと思っている。その背景として、社会教育の分野において市民のニーズを掴みうまく取り入れながら講座を企画しておられることがうかがえる。本当に感謝している。伊丹市の社会教育企画と参加者の層の厚さは常々感じているところだが今回改めて感心している。市民の基礎体温が上がると地域の協力が得やすくなり、川崎委員が以前おっしゃった支援などもうまくいくと思うので本当にありがたい。

川崎委員 教育長報告の中に放課後学習の実施状況を入れてもらえないか。学校によって実態が違うようなので。

村上部長 放課後学習については、学校によって実施形態が異なっていて、例えば、対象学年や実施回数等に違いがある。実施予定ではなく、実施した回数等

の状況を報告させていただくということか。

川崎委員

教育長報告に入っていないことは知りようがないので毎月とは言わないが3ヵ月に一度くらいでお願いしたい。

放課後学習は学力の低い子どもへのアプローチとされていると思う。そういった支援も必要だが、私が気にかけるのはそうでない子どもである。保護者の方針や家庭の事情により塾に行っていない子どものことである。学力の低い子どもだけでなく誰でも気軽に参加できるような放課後学習を考えていきたい。土曜学習は理科の実験をされているなど社会教育の色が強いように思うので。

木下教育長

私の基本的な姿勢は、現状を把握し、課題があれば素早く具体的な対策を講じ、解決や改善を図るというものである。冒険教育施設の利用状況や読書冊数、学校園ホームページの更新回数等も学校からの報告により実態を明らかにし、改善策を講じてきた。

結果、利用回数や読書冊数、更新回数が増え、子どもたちの成長や学力向上、保護者や地域の理解に繋がっている。

ただ、統計をとる場合、学校に調査して集計する業務が増えることになるので即答はできないが検討する。

川崎委員

現場の先生方や事務局に無理のない範囲でお願いできればと思う。

木下教育長

7-5ページのICT活用状況について、平成27年度は年間の活用時間2,100時間を目標に掲げ取り組んだが2,691時間と目標を上回る結果であった。平成28年度は、より細かく分析するためクラス毎の活用時間を出すこととし月平均20時間を目標に掲げている。この月平均20時間がどの程度かということ、年間の累積時間に直すと105,820時間で平成27年度の実績が67,275時間だったので約1.5倍を目指すことになる。平成26年度に比べて平成27年度の実績も大きく伸びているが、平成28年度は大型ディスプレイや実物投影機等を1教室に1台ずつ設置するのでさらなる活用の推進を図っていきたい。

秋田委員

ICTの活用について、忘れないでほしい視点をお話する。ICTの活用は目的ではない。これは方法論であって、ICTの活用によって児童

生徒に何を伝え、児童生徒が何を得るかということが大事。児童生徒が分かりやすいように、あくまで教える方法として用いるものなので、当然施設や設備を整えなくてはならない。今、施設や設備が整い活用する段階だが、目的のために使うということを外してはならない。活用時間を増やすことが目的ではない。

私は複数の大学で毎回学生に手書きのレポートを提出させている。それも縦書きで。学生は手書きに慣れていないので、最初は漢字の意味を無視したような誤字が多い。手書きで作成させると辞書を引いたり表記の際に意味を考慮するので誤字が少なくなるのに加え、てにをはの使い方も整ってくる。振り返りを書くことで理解の深さも変わってくる。実は分かったように感じていることをもう一度振り返り定着させることは大学生でも時間が必要な面倒な作業である。この定着させる部分にICTは使えない。ICTの活用にあたっては目的を意識することを十分に周知いただきたい。

木下教育長

まさしくその通りである。目的はどのような力を育てたいかということである。ICTの活用が学力向上により影響を与えることは明らかになっている。さらに、ICTの活用により子どもたちの説明する力や表現する力等の向上を期待している。

川崎委員

学校訪問でお聞きしたが、1学級に1台ずつ配置されるということでさらなる活用の充実をお願いしたい。

秋田委員

将来を考えて危惧していることがある。子どものときに不登校だった人は学校に記録があるので接触・支援が可能だが、大人になって就職でつまづいたり人間関係に悩んだりといったことが原因でひきこもりになった人は支援ができない。社会教育でも積極的に活動する人は把握できるが、そうでない人は支援しようにも把握できない。極端な話だが、事件などで表面化してやっと支援対象として把握・接触できるという状態である。社会が手を差し伸べて本人に役割を与えることが、本人にとっても社会にとってもよいのではないかと思う。今後、人口減少が進んだときそういったことに対する支援は大変重たいものになってくる。今は数字になって出てこない人たちへの今後の支援について10年後、20年後を見据えてそろそろ考えなくてはならない。

木下教育長 いわゆるニートやひきこもりの人数は多く、深刻な問題である。このことについては、現在市長部局のこども未来部を中心に対策会議が設けられ、取組について議論がなされている。子どもの不登校とは違い、接点がないので実態をつかみにくという点で非常に難しい問題である。今議会にも議員から質問が出た。所管は市長部局だが横の連携が必要であるし、教育としては不登校の子どもを出さないことがまず第一の取組であると考えている。今後情報を得ながら市長部局と連携して取り組んでいきたい。

谷澤部長 ひきこもりについては、こども未来部こども若者企画課が所管している伊丹市青少年問題協議会のなかで検討・協議が行われている。青少協はこども未来部だけでなく学校教育部や健康福祉部等の関係機関の職員や関係団体の職員、学識経験者等で組織している。現在ひきこもりの実態を一番掴んでいるのは健康福祉部の自立相談課という部署で、同居する家族からの相談により表面化することが多い。当事者の社会復帰に向けた具体的な取組としては、市社会福祉協議会と連携して開催した「ひきこもり家族のつどい」や、当事者が家の外に出るためのきっかけづくりとして実施した「ゲームカフェ」等がある。青少協は年2回開催し、当事者や家族に対する支援等について検討していく予定なので、今後の取組等が定まったら情報提供させていただきたいと思う。

秋田委員 阪神淡路大震災のときにそれまで不登校であった生徒がボランティア活動に参加し、率先して避難所にいる人の手助けをしている様子を目の当たりにした。避難所が閉鎖されたらまたひきこもってしまったのだが、東日本大震災のときも同じような現象が見られたと聞いている。彼らは役割や人に求められることを待っている。伊丹市は社会教育が盛んなので、その活動の中に彼らを組み込むことはできないかと考えている。

もちろん今不登校対策をしっかりして不登校の子どもを出さないというのも大事だが、色々な事情が重なってひきこもってしまった人に対する支援としてなにかできないかと思ってお話しさせてもらった。

(5) 議案第45号の審議（日程第3）

木下教育長より「議案第45号 平成28年度全国学力・学習状況調査結果の公表等について」を議題とする旨の発議の後、「平成28年度全国学力・学習状況調査結果の公表等について」

て」決定しようとするものです。」との説明がなされ、学校教育部長より補足説明があり、質疑応答の後、全委員一致で「議案第45号」を可決。

質疑応答

木下教育長

学習状況調査の結果で、「朝食を毎日食べている」や「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」といった基本的な生活習慣や朝食の摂取率等学力調査の結果と相関の高い事柄については外せないと判断して、昨年度と同様に載せることとした。また、前回の協議会で委員からいただいた「学びに向かう意欲や学校が楽しいかといった観点は重要」といったご意見を参考に「学校に行くのは楽しいと思う」や「好きな授業がある」というものや、昨年度の結果から課題であると判明した「平日の授業時間以外の学習時間」といった家庭学習に関する事柄を追加することとした。

川畑委員

朝食の摂取率に関しては、保護者が朝食を摂っているかということや子どもが大事にされているかといった家庭のあり様を反映するものなので入れていただいていたありがたい。

「先生は自分のよいところを認めてくれている」という内容の設問はあったか。前回もお話ししたが、中学生を対象にした調査で先生からのサポートを実感している子どもの割合が低くなっている。子どもの中で先生に対する信頼感が大きく低下するということは、心理的な問題につながる恐れがある。そういったことから是非入れていただきたいのだが。

村上部長

確かではないがあったと思うので検討する。

川崎委員

中学校で授業中に質問しにくいという話を聞いた。「先生に気軽に質問ができるか」といった観点の設問があれば入れていただきたい。分からないことは塾で聞くと言っている子どもがたくさんいてどうしても気になる。

村上部長

学習状況調査の設問については、毎年少しずつ変更があるので再度確認して今いただいたご意見を参考に検討したい。

木下教育長

表面化した課題や知らせたい実態を主に掲載し、タイミングを捉えて周知することを目的としている。結果を見て、例えば先生に質問できる風土がないことが明らかになった場合はその実態を知らせるべきだと考える。継続して取り組んだ結果、改善が見られたものについては掲載をやめるなど、効果

的な情報提供を行いたい。

川畑委員 今日訪問した学校は、昨年度学力テストの結果が下がっていたのだが朝食摂取率も同じように下がっていた。やはり家庭のあり様が子どものやる気等に影響していると改めて感じた。学力と密接に関連のある事柄については実態を知らせていただくのがよいと思うので今回資料に入ったことは喜ばしい。

木下教育長 私も朝食を摂ることや早く寝ることは身体だけでなく脳と心も育てると思っている。

江原委員 学校は自校の分析にあたっては事務局の出された速報を参考にするので、今回変更した部分や重要とした部分について周知いただきたいと思う。

(6) 議案第43号の審議（日程第4）

秘密会での審議の後、全委員一致で、「議案第43号 伊丹市社会教育委員の委嘱について」を可決。

(7) 議案第44号の審議（日程第5）

秘密会での審議の後、全委員一致で、「議案第44号 伊丹市立少年愛護センター運営協議会委員の委嘱について」を可決。

(8) 閉会宣言

木下教育長（午後4時15分）

上記のとおり会議の要旨を記録し、ここに署名押印する。

伊丹市教育長 木下 誠

伊丹市教育委員会委員 江原 礼子